

## 心に寄り添うこと



オフィスカワムラ代表 河村 都

私は現在、幼稚園・小学校の先生に向けた研修、保護者への講演、子どもの「知と想像力」を育てる知育教室を各園で開催しています。2007年にオフィスを立ち上げる直前まで一般企業で25年間、トップのセカンドとして「人材育成」を中心にパワー全開で働いていました。その企業のスタッフは学歴も高く頭も良いのですが「社会人として、人間として」の基本が身につけていない人も多く、社員教育には苦労しました。挨拶が出来ない、上司部下との付き合い方やミスへの対処がわからない…等の対応を指導しながら「この人は幼い頃に親からどのように育てられたのか？」と疑問を感じ、「大人になってからでは遅い。教育の原点は幼児期が重要」ということに気付きました。「大人を教えている場合ではない。私の経験を子育て中のお父さんお母さんに、先生方に伝えたい！」の思いで会社をやめオフィスを立ち上げたのです。

私は「ハッピートライアングル」ということを提唱しています。トライアングルは、「子ども、保護者、先生」が3辺で繋がっています。その3辺がコミュニケーション良く流れればトライアングルは綺麗な音を奏でます。ですが誰かが1辺を握ってしまうと鈍い音になります。私は子どもたちにトライアングルの綺麗な音色を聞かせたいのです。3辺を繋ぐ「コミュニケーション」の本来の意味は「心と言葉と表情がミックスしてお互いにキャッチボールすること」なのです。ですから心や表情が見えない“メール”ではコミュニケーションはとれないですね。多くの子育て中の保護者がコミュニケーション不足で孤独感に憔悴しています。ですから「子育てにイライラし自分の感情のコントロールが出来ない」ことがお母さん方の悩みNo.1なのです。先生方も保護者

との対応が上手く出来ず、それが原因でのクレームや職員間での付き合い方に悩み、教育現場で笑顔になれない現実があります。これでは子どもたちに綺麗な音を聞かせることは出来ません。大人は子どもと同じ“土俵”に上がらず、子どもを一段降りたところから冷静に見ることが大切です。また、大人同士もお互いに相手を客観的に見て、認め合う努力が必要なのかと思います。相手のことを一度冷静に受け止めてみると「悪いのは相手だけでなく自分にもある」ということに気付きます。そこに気付くと相手に対して「寄り添う気持ち」が生まれてきます。人を育てる時はこの「寄り添う気持ち」が一番大切だと私は考えています。それを「ホスピタリティマインド」と言います。親が子どもの心に寄り添う、先生方に感謝の気持ちを持つ。先生も親の状況や気持ちに寄り添う、子どもたちに素敵な笑顔を向けることが出来る。そうすると子どもは皆に愛されていることを実感し、安心して毎日を積み重ねていくことができます。教育現場では「トライアングルの綺麗な音色を子どもに聞かせること」が一番大切なことではないでしょうか。ですが、現場を見聞きする限り、簡単なことのように現実には相当に難しいことのようにです。

この思いを保護者、先生双方に「橋渡し」するのが私の役目と受け止めています。保護者に向けては先生の立場から、先生方には保護者の立場で、「コミュニケーションの大切さ」を研修や講演の場で強く伝えていきます。子どもが心豊かに育つよう、「笑顔でコミュニケーションが出来る」「相手の気持ちに寄り添い行動出来る」大人が増えることを願ってやみません。

## あす 次代を担う子どものために～幼児教育の振興に向けて～

幼児教育振興法（仮称）の早期制定、幼児教育の無償化等を願い盛大に開催



7月13日、午後1時から東京・ホテルオークラ東京において、全日本私立幼稚園PTA連合会(河村建夫会長)の第30回PTA全国大会が開催されました。「次代(あす)を担う子どものために～幼児教育の振興に向けて～」を大会テーマに、全国各地から保護者代表、幼稚園関係者など約1,200人が参加しました。

本会では安倍晋三内閣総理大臣をはじめ、下村博文文部科学大臣、中曽根弘文自由民主党幼児教育議員連盟会長、PTA連合会からは河村建夫衆議院議員(全日私幼P連会長)、遠藤利明衆議院議員(全日私幼P連副会長、教育再生実行本部本部長、東京オリンピック・パラリンピック大臣)、山本順三参議院議員(全日私幼P連副会長)、さらには森喜朗元内閣総理大臣(全日私幼P連最高顧問)が出席され、衆議院、参議院合わせて150名を超える国会議員ご臨席のもと、盛大に開催されました。

第1部の大会式典は、遠藤利明全日私幼P連副会長の開会あいさつの後、河村建夫全日私幼P連会長、



河村建夫全日私幼P連会長、衆議院議員

森喜朗全日私幼P連最高顧問があいさつをされ、続いて全日私幼連の香川敬会長があいさつをされました。来賓祝辞では、安倍晋三内閣総理大臣、下村博文文部科学大臣、中曽根弘文幼児教育議員連盟会長からご祝辞をいただきました。

続いて、河村会長より幼児教育振興法の早期制定に向けて中曽根幼児教育議員連盟会長に要望書が手渡されました。その後、山本順三全日私幼P連副会長から出席された来賓の国会議員一人ひとりのご紹



▲安倍晋三内閣総理大臣、衆議院議員



下村博文氏  
文部科学大臣、  
衆議院議員



中曽根弘文氏  
自由民主党幼児教育議員  
連盟会長、参議院議員



遠藤利明氏  
全日私幼 P 連副会長、  
衆議院議員



山本順三氏  
全日私幼 P 連副会長、  
参議院議員



森喜朗氏  
元内閣総理大臣、  
全日私幼 P 連最高顧問



香川敬氏  
全日私幼連会長

介が行われました。

第二部の記念講演では、文部科学省初等中等教育局長小松親次郎氏より「幼児教育の振興方策について」をテーマにお話しをいただきました。

次に雅楽師の東儀秀樹氏より「親がワクワク楽しみながら子どもの人間力を養う子育て」をテーマに講演が行われました。

最後に、歌手の麻衣さんによる歌が披露され、最後の曲「故郷（ふるさと）」では会場の全員で合唱し盛況のうちに幕を閉じました。



▲小松親次郎文部科学省初等中等教育局長



▲雅楽師・東儀秀樹さん



▲歌手・麻衣さん

★6・29 認定こども園「教育・保育 質の向上」全国研修会

## 「カタチ」変われど みな幼稚園！

～認定こども園「教育・保育 質の向上」全国研修会を終えて～

全日本私立幼稚園連合会  
認定こども園委員長 森迫 建博



6月29日、全日本私立幼稚園連合会は、内閣府・文部科学省・厚生労働省の3府省の後援のもと、認定こども園「教育・保育 質の向上」全国研修会を東京・グランドヒル市ヶ谷にて開催いたしました。当初300名程度の会場を予約しておりましたが、予想以上に参加を希望される方々が多く、締め切り前に募集人員を大きく上回っていることが判明。各都道府県団体にやむなく募集停止を申し入れ、最終的に450名程度となりました。

開会式では、香川敬全日私幼連会長の主催者あいさつに始まり、来賓のあいさつとして、内閣府子ども・子育て本部 三谷卓也参事官、文部科学省 淵上孝幼児教育課長、厚生労働省 朝川知昭保育課長からそれぞれごあいさつをいただきました。

研修①：認定こども園委員会 全国アンケート結果報告・移行に役立つ情報

研修①は、「認定こども園委員会 全国アンケート結果報告・移行に役立つ情報」を委員長が行いました。「全国アンケート結果報告」として、新制度移行後約2ヵ月を経過しての「市区町村との関わりの中での課題」や「自園としての課題や移行にあたっての不安」を、当連合会加盟園から回答のあった155件を20項目にまとめ報告しました。「移行に役立つ情報」では、副委員長中心にまとめた「認定こども園移行に必要なもの」、幼稚園型認定こども園を例として「重要事項説明書」・「園利用時間申請書」・「土曜日利用時間申請書」を説明しました。

## 研修②：子ども・子育て支援新制度における公定価格等について

研修②は、「子ども・子育て支援新制度における公定価格等について」を、文部科学省 林俊宏幼児教育企画官（併）内閣府子ども・子育て本部参事官付企画官よりご説明いただきました。パワーポイントで207ページにも及ぶ膨大な資料でしたが、「職員配置」「処遇改善等加算」などの今一番聞きたいポイントを押さえた分かりやすい説明でした。

## 研修③：認定こども園の労務管理

研修③は、社会保険労務士法人ゆびすい労務センター 平幸次特定社会保険労務士による、「認定こども園の労務管理」でした。

全国の多くの私立幼稚園・認定こども園との業務提携をしている同グループならではの豊富な現場の実例や「非常勤職員」・「メンタルヘルス」・「マイナンバー制度」等、経営上深刻な面もある話題を、今後の労務ポイントとしてユーモアを交えてお話しいただきました。



## 研修④：【事例発表】『幼稚園ならではの』の認定こども園の質向上

研修④は、『幼稚園ならではの』の認定こども園の質向上（コーディネーター：森迫建博）として、大阪府・豊中市の認定こども園せんりひじり幼稚園・ひじりにじいろ保育園安達譲園長（全日私幼連 教育研究委員長）、鹿児島県・阿久根市の認定こども園阿久根めぐみこども園輿水基園長（（一社）鹿児島県私立幼稚園協会 認定こども園委員長）がそれぞれ事例発表されました。

安達先生は、教育・保育の質を①構造の質②プロセスの質③成果の質の3つに分類し、『②プロセスの質』は、子どもの育ちに最も重要であるに

**新刊** 動かして遊ぼう！  
**びっくり！おもしろ  
しかけ遊び**

ねじれた輪ゴムのしかけや、転がるしかけ、曲がるストローのしかけなど、シンプルなしかけで愉快な動きを楽しもう！不思議な力と触れ合って遊べます。

立花愛子 佐々木伸 著  
定価 2,160円（税込）26×21cm／80ページ  
発行・発売 チャイルド本社



- **※ 好評既刊 ※**
- びっくり！おもしろ紙遊び
- びっくり！おもしろ砂遊び
- びっくり！おもしろ空気遊び
- びっくり！おもしろ水遊び
- びっくり！おもしろ光遊び

もかかわらず、目に見えにくく保護者や社会に理解してもらいにくい」として、自園では、「①コンセプトブック②ポートフォリオ③クラス懇談会等で、質の概念を外部と共有しようとしている」と述べられました。

輿水先生は、「鹿児島県で初めて認定こども園に移行したことで、園児数減に歯止めがかかっただけでなく、市への積極的情報提供・提案によりパイプが構築できたことがよかった。1号認定の子どもが一定数存在することで、コアタイム終了後の時間に計画・反省・教材研究ができることが、幼稚園由来の認定こども園の強みである」と述べられました。

その後、懇親会として、第1回全日私幼連認定こども園全国交流大会がありました。全日私幼連の旗のもとに認定こども園と移行希望園が出会うはじめての交流会となりました。「正直、平成28年度からの移行を迷っていました。この研修会に参加してから決めようと思っていました。今まで大事にしてきた『教育』を守りながら、さらに活かして認定こども園になれるのですね。もう迷いません」こんなうれしい会話があちこちで聞かれる嬉しい時間となりました。4月から私立幼稚園は、私学助成の幼稚園・施設型給付の幼稚園・幼

稚園型認定こども園・幼保連携型認定こども園の計4類型に分かれました。しかし、幼稚園由来の園は「幼児教育」を大切にしていくことに変わりはありません。中締めに参加者一同『カタチ』変われど「みな幼稚園!」と、唱和して盛り上がったところでした。

今回、参加希望されながら叶わなかった先生方に、改めてお詫び申し上げます。今後、地区のご希望があれば、今研修会の地方版の開催も予定しておりますのでよろしくお願いいたします。

最後に、参加者の皆様をはじめ司会進行を務めた安元大介副委員長や関係者の皆様、ほんとうにお疲れ様でした。

### 全日私幼連 設置者・園長全国研修大会

全日私幼連の第31回設置者・園長全国研修大会は、来る10月26日(月)・27日(火)の二日間にわたって、岩手県盛岡市で開催します。研修会の詳細につきましては、各園へ配布予定の開催要項または全日私幼連のホームページをご覧ください。

## (株)学研教育みらい

東京都品川区西五反田2-11-8  
幼児教育事業部

お問い合わせは  
フリーダイヤル 0120-833-415

### 園ぴゅう太のメールサービス



サーバー二重化!

#### らくらくメール

園から保護者へらくらくメール送信! 組別・個別送信、既読確認もできます。サーバー二重化で、いざという時も安心です。



スマホで

#### らくらくバスメール

スマートフォンでバスメールを送信! 大きなボタン表示で画面操作もらくらく。タップするだけでメール送信できます。

### ぜ〜んぶ学研に おまかせ!!

心機一転!  
リニューアル

オリジナル!  
キャラクター  
ロゴ

Flashで  
動画!

#### らくらくホームページ

目的やご要望に合わせて作成し、学研が更新もお電話・FAXで対応します。「お知らせ更新は園で…」というご要望にもシステム併用でご対応いたします。

## 幼児教育振興法（仮称）などについて協議

7月14日、東京・アルカディア市ヶ谷において、全日私幼連臨時理事会が開催され、54名（定数は59人）が出席しました。

尾上正史副会長による開会の言葉と香川敬会長からのあいさつの後、議長に坂本洋理事（岩手）と土居孝信理事（大分）が選出され、議事録署名人には棟方重幸理事（青森）と鈴木伸司理事（神奈川）が選任され、議事に入りました。

### ■協議案件1：幼児教育振興法（仮称）の件

田中辰実総務委員長より同日行われた臨時常任理事会の説明の後、田中雅道副会長より幼児教育振興法（仮称）の説明がありました。

協議案件を行う中、自由民主党幼児教育議員連盟会長・中曽根弘文参議院議員が見え、幼児教育無償化や概算要求、また幼児教育振興法（仮称）について説明をされました。

### ■協議案件2：署名活動について

香川会長より、幼児教育振興法（仮称）に向けて



の署名活動について協議案件から審議案件に移して話し合う意向が説明され、満場一致で承認され審議に移されることが決まりました。

### ■審議案件1：署名活動の実施について

香川会長より説明があり、活発な質疑応答があった後、署名活動実施について満場一致で承認されました。

**秋田喜代美先生の3部作**

各巻B6上製判  
定価：本体  
1,200円（税別）

L66600

**保育の心もち**  
秋田 喜代美

**保育の心もち**  
保育に携わる姿勢・「心もち」をさまざまな視点からわかりやすく解説。すべての保育者のための日めくりカレンダーのような優しい本です。

L66900

**保育のおもむき**  
秋田 喜代美

**保育のおもむき**  
何気ない保育の場面や子どものようすから、筆者が心動かされたことや、環境を通して行なう教育としての日本の保育の良さ、それぞれの職がこもし出す「おもむき」を味わえる。保育に携わるすべての人の心に響くコラム集です。

L65800

**保育のみらい**  
秋田 喜代美

**保育のみらい**  
保育制度改革の真の意味を問う書き下ろしを含む、いつもの保育にプラスになる珠玉のアンソロジー！ 保育の大切さが伝わる、読みやすくまとめられた日本教育新聞他の連載を中心に単行本化したものです。

**ひかりのくに株式会社** 本社／〒543-0001 大阪市天王寺区上本町3-2-14 TEL.06-6768-1151代表  
支社／〒175-0082 東京都板橋区高島平6-1-1 TEL.03-3979-3111代表

## ■その他

尾上こどもがまんなか PROJECT 委員長より、こどもがまんなか PROJECT 事業活動の CD が配られ、各地区での教研大会等での動画上映の実施について説明がありました。

最後に澤田豊副会長の閉会のあいさつで本臨時理事会は閉会いたしました。

(調査広報委員長・四ツ釜雅彦)

## ●7・14 臨時常任理事会

臨時理事会に先立ち全日私幼連の臨時常任理事会が開催され 29 人が出席しました。

尾上正史副会長の開会の挨拶、議長に村山十五副会長、議事録署名人に前田邦光常任理事と上田雅裕常任理事が選任され、議事に入りました。

まず、本常任理事会では淵上 孝文部科学省初等中等教育局幼児教育課長が出席され、自民党で検討されている幼児教育振興法(仮称)の動向について説明されました。その後協議に入りました。

### ■協議案件1：幼児教育振興法(仮称)の件

田中総務委員長より幼児教育振興法(仮称)の署名活動について説明があり、協議案件として同日行われる臨時理事会で上程される旨が満場一致で承認されました。

(総務委員長・田中辰実)

## 鈴木良一氏が専務理事に

全日私幼連の小林弘明専務理事が、6月30日をもって退任されました。小林氏は平成23年7月から本連合会の振興発展にご尽力いただきました。後任の専務理事には、鈴木良一氏が就任されました。



鈴木良一(すずきりょういち)

昭和25年生まれ。東京大学法学部卒業後、自治省へ入省。岡山県地方課、消防庁防災課、自治省財政局、山梨県県民生活局兼企画管理局、同商工金融課長、同企画管理課長、同財政課長、自治省行政局選挙部選挙課課長補佐、同行政局公務員部公務員第一課課長補佐、兵庫県総務部地方課長、同総務部財政課長、同総務部次長兼財政課長、自治省財政局財政課財政企画官兼大臣官房参事官、広島県総務部長、自治省財政局財務調査官、同行政局選挙部政治資金課長、東京都企画審議室特命担当部長、同行政部長、同主計部長、自治省大臣官房付、宮崎県副知事、総務省大臣官房付(官房審議官併任)、同統計局統計調査部長などを歴任。平成17年退官後、日本消防検定協会理事、(財)全国市町村振興協会常務理事、(一財)消防試験研究センター理事長などを務める。

理事長・園長・副園長・主任…保育現場をマネジメントするすべての保育者のために

# 園の未来をデザインする 保育ナビ

月刊保育雑誌

定価：本体価格926円+税  
B5判 72ページ

## 9月号の主な内容

特集 幼児期に言葉との幸せな出会いをつくる  
～リーダーが伝えたい 心が伝わる言葉かけ～

- 新人・中堅を育てる 組織をつくるための12のポイント  
行事に疲れてしまう新人の声
- 保育の質向上へのヒント―場・素材を考える―  
創造力を培うアトリエ空間
- スピーチ実践術! Part2  
運動会

・人材育成の連載が充実!  
・特集記事、連載記事の連動企画が  
Webで読めます!  
「保育ナビ」で検索!

※表紙・内容は変更の場合があります。



2015年度の表紙写真は倉橋想三の言葉に合わせて選んでいます。ぜひ本誌をご覧ください。

ISBN978-4-577-81379-9 749

ご注文・定期購読のお申し込みは下記まで  
03-5395-6608 保育営業部

本社：〒113-8611 東京都文京区本駒込 6-14-9 <http://www.froebel-kan.co.jp>

キンダーブックの  
フレイベル館

Kirsti Karila タンペレ大学学校教育学部副学部長・教授

## フィンランドにおける就学前教育から 小学校教育への移行 ～越境する子ども・保護者・教師～

今回から、シンポジウムの後半であるフィンランドの幼児期から児童期への移行についての話になります。

フィンランドでは、保育所、幼稚園、学校と、別々の施設が歴史的に存在しており、義務教育の始まりは7歳になる年からですが、近年6歳児の保育が義務教育となっています。子どもの権利として家庭保育及び施設保育を受ける権利があり、親が保育を必要とする際にはそのいずれにせよ、市町村が提供する必要があります。その中で、フィンランドの3歳以下の子どもたちの就園率は高くないという調査結果がありました。北欧諸国での就園率からみると例外的であると言えますが、その理由は補助金が家庭保育の為に家庭に出される事にあり、そのため就園していない子どもには家庭保育が行われています。良いシステムですが、教育的効果が保護者の教育的スキルに大きく影響される点が課題とも言えるでしょう。



2000年からプレスクールの改革運動が行われており、準備教育的なもので、6歳児の就園が義務化になりました。プレスクールは無償であり、一日4時間の保育時間が提供されています。ちなみに、0歳～6歳までの子どもを対象にした施設の場合は、収入と家庭のサイズ、子どもの人数によって費用が決まり、月に無償～200ユーロ（0円～3万



バス専用機不要！  
スマホで簡単バス運行管理！

# くるんとバス

-通園バス位置情報システム-



**いつもNAVI**  
「いつもNAVI 動態管理サービスfor送迎バス(くるんとバス)」は、株式会社ゼンリンデータコムの登録商標です。

「くるんとバス」はスマートフォン・タブレットのGPS機能を活用したシステムで、バスの運行情報や到着メール・ルート作成等を提供するクラウド型サービスです。

株式会社 **チャイルド社** インターネット課  
TEL.03-5370-7497 〒167-0052 東京都杉並区南荻窪4-37-15  
ホームページアドレス <http://www.child.co.jp/>

円程度)ほどかかります。

### ■ 3つの教育目標

さて、幼児教育施設、学校などは全て教育省の管轄にあり、同じ法令の下に次の3つの点が目標として定義されています。一つ目は、人として育つ事及び、良識ある責任を持った社会の構成員として育つ事を支え、人生において必要な知識やスキルを提供し、学ぶ力を向上させること、であり、二つ目は、教育は社会における市民性と平等、子どもが教育に参加するための、生涯にわたって発達を遂げていくために事前に身につける力を育てる事になります。三つ目は、教育は教育における適切な平等性を国の隅々にまで保障しなければならない点で、地域や収入の多寡などに対して平等性を欠いてはならない事が明記されています。

### ■ 教育に対する地方自治体の役割

フィンランドでは地方自治体が非常に大きな権限と責任を持つため、教育に対しても地方自治体が確



固とした役割を担っており、保育及び基礎教育は政府より法案が提供されますが、地方自治体が財政的にも責任を負います。

また、教育政策や教育内容に対する権限も持ち合わせており、国のコアカリキュラムの修正、実施に対しての裁量が認められています。(ちなみに、現在のコアカリキュラムは2016年に改訂されるため、内容についての議論が準備委員会によって進められているそうです。)

就学前に行われる6歳の無償教育の部分を、学校で行うか、保育施設で行うかといった判断も各自治



優れた芸術家の作品を、  
子どもたちの生活環境へ。  
見て、触れて、感じながら、  
子どもたちの心は、  
大きく羽を広げます。

「喜ぶ少女」

株式会社 ジャクエツ  
www.jakuetsu.co.jp

体に任されており、地方によってその就学前の在り方は様々です。大都市では人口流入によって沢山の子どもたちが集まる一方で園が足りない地域もあり、逆に人口が少なくして少数の子どもを保育している所もあります。それがフィンランドの保育を国で一括りにするのが難しい一因と言えるでしょう。また、フィンランドでは保護者のほとんどが就労しており、前述の通り1日4時間の保育時間が保障されているため、就学前の子どもたちのほとんどが保育施設で保育を受けており、4時間が終わると園に併設されたプレスクールで、そのまま継続して保育を受けられる所もあるようです。

## ■移行期における多様性

幼児期から児童期への移行を考える際、文化や教育の文化、あるいは地域の文化を考える必要がありますが、フィンランドでは比較的移民が少ないため、文化的差異はそれほど無いようですが、それでも移行期に関して様々な在り方が存在します。

新しい大都市であるタンペレでは、小学校と幼稚園、幼児教育施設を一緒に建てる事が多く、それが都市部の流行となっています。幼小施設が「建物」によって規定されている事になりますが、同一敷地内にある大きなメリットは小学校と幼稚園の先生が互いの施設に行き、頻りに話をすることが容易になる

点と、子どもたちにとって“新しい所に行く”という苦痛を感じにくい点が挙げられるでしょう。とはいえ、そのような場合においても移行期について考えなければならない事は多く、6歳児教育のカリキュラム、特に幼小施設が一体化する事によって6歳の遊び中心の生活が強調されなくなり、学校的になってしまうという難点は克服すべき課題になります。分離型の施設では、子どもたちが年に数回小学校に行き、小学校について知る移行のプログラムが導入されます。

施設での一般的な流れは、登園、自由遊び、様々な活動や外出ののちにランチがあり、その後に自由遊び、おやつ、外出、降園という流れが一般的だそうです。近年の接続期の捉え方として、園で就学前の準備をさせる事、学校側が受け入れる準備を行う事とされていますが、柔軟にスケジュールを作れる幼児教育施設に対し、学校側はそうでもない事が多く、子どもを受け入れる時にどのように変えて準備をしていくかが重要であるとの事でした。(つづく)

(京都市・光明幼稚園副園長/田中康雄)



こども園への移行? 0・1・2歳児保育を導入? 保育の質の向上は?

## 選ばれる園になるために

～変革のビジョンと実践22例～

## 保育施設の未来がこの本に!

保育施設の“機能と質”を考える。  
22園の変革ビジョンとプロセスを一挙公開。

私立幼稚園経営者懇談会・著  
248ページ/税込4,320円  
世界文化社刊/4061301

株式会社 世界文化社 ワンダー営業本部  
TEL: 03-3262-5128 FAX: 03-3262-6121

「子どもの発達と学びをつなぐ記録の取り方」  
～子どもの育ちを理解し、教員間で共有するために～

発表者 関東地区 小倉 庸寛(愛泉幼稚園)

高柳 恭子(共和大学准教授)

【研究テーマ設定の理由】

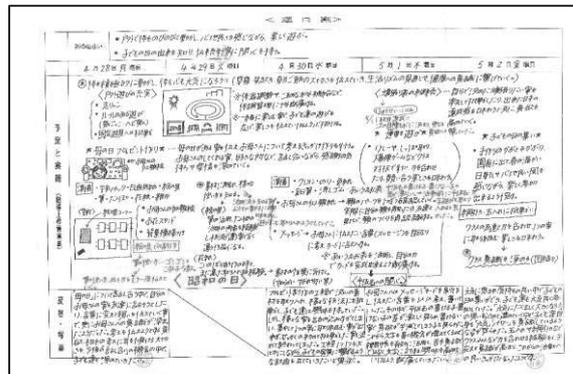
はじめに、幼稚園教育において、保育者は、幼児との信頼関係のもとに、集団生活の中で発達に必要な体験・経験を幼児自らが積み重ねていくことができるように環境構成し、その場面に適切な援助を行うことが必要とされている。そのために重要とされてきたものが、記録であり、そこから読みとる個々の育ちや変化は、自らの保育を振り返り、指導の改善につなげるという、好循環のサイクルが構築される。さらには、その記録を他の教員と話し合うことで、多面的に保育を見直すことができ、より幼児理解を深めることができると考えられる。当園にも若い教員が在籍し、幼児理解や保育の振り返りにおいて、日々の記録を重要としているが、その記録の仕方や記録をどう生かしていくかを研究テーマとして考えてみたい。

【研究方法A】

当園の教員は平均年齢28歳、平均勤続年数4.3年と若い。経験が浅い教員たちの質の向上の為に、教員同士で学び合いながら「幼児理解」と「記録」をつないで考えることをポイントに研究を行った。

前年度の自己評価により、毎日の反省(保育記録)が残っていないことを反省とした教員がいた為、改善方法を話し合った。それにより今学期からは月案、週日案に直接反省を書き込む方法を取り入れた。

反省点は赤。子どもの様子は青。気を付けることを黄色マーカーで書き込んでいった。



考察：この方法は簡単(手軽)であるが、幼児理解を深めたことにはならないとの反省がある。また、保育の現場を「記憶」またはその場で「メモ」に残しておくことが難しいとの意見があった。

【研究方法B】

研究Aにより、保育中に子どもの様子、環境などを撮影して記録に残すことを行った。フォーマットは写真を貼り、写真の子どもの前後の様子(エピソード)を記入する。「結果」を残すこととし、その記録を使って幼児理解を深めることを目的にした。(※週日案とは別と考える)

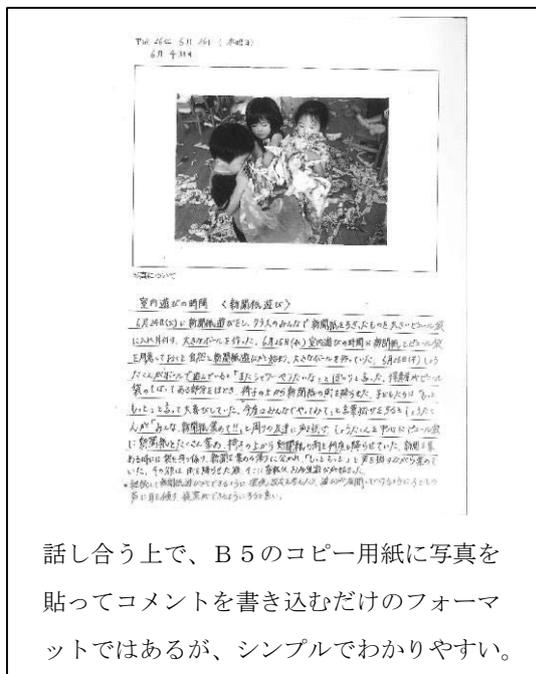
日々の保育をデジカメで撮影する。



例)「ありの～ままの～」を歌っている写真

考察：写真をもとに週日案と照らし合わせて学年ごとにミーティングを行った。話し合

うことで子どもを理解し、その後の保育の展開を膨らませるアイデアなどを出し合った。また、学年で話し合った事例は全体ミーティングで発表をし、さらにその事例について意見を出し合い、共通理解をする。



効果1：新人教員が発表した際、子どもを見る視点が面白いこと、子どもの言葉をよく拾っていることを先輩たちから褒められた。とてもうれしかったようで、自信につながった。

効果2：先輩の事例をみんなで共有できたこと。保育は1日の中で変化し、担任が臨機応変に動いていることが可視化された。（※保育は動いている、日案どおりではないこと）そこには子どもを理解すること、担任の思いがあることが全教員に広まった。

### 【まとめ】

今回の取り組みは、記録から幼児理解し、共有することが目的ではあったが、教員間のコミュニケーションが活発になることや同僚を理解することにもなった。保育のエピソードを話し合うこと、発表することは面倒なことではなく、むしろ教員同士で楽しんで行っていた。記

録の取り方、記録のフォーマットを研究するまでには至らなかった点は、発表者自身の勉強不足と猛省する。しかし、若い教員の「記録をとることは何の為か？」との問いに、このテーマの重要な視点と新たな課題に気づき、園全体で取り組めたことは、今後、園内で行うミーティングが質の高いものとなり、資質向上につながるはずである。また、教員が「記録」っておもしろい！と思えることで、記録に対して苦手意識を持たずに、幼児理解を深めることができるのではないか。教員の自信や意欲、幼児教育者としての自覚につながっていくと期待をし、今回のまとめとする。

### 【助言（高柳氏）】

今回の発表は、保育の振り返りの重要性を示せたのかと思う。（当初のねらいとは違うが…）まずは、日案を書くこと、1日のプランをきめ細かく書くことは必要である。保育者として1日の保育を行う心構えが得られ、何より自分のためになる。

例えば、1年目と6年目では書き方は違うであろうし、内容（質）も違うはずである。だが、保育を行うことは同じである。その内容を1年目と6年目が一緒に振り返ることが質の向上につながり、1年目の教員も成長していく。プランを可視化すること（写真に残すなど）で新たに気付くこともあり、言語化することも容易になっていく。

保育記録を話し合いの題材にすることは、他人の意見を聞くこと、視点が入ることができ、自分の癖や振る舞いがわかり、子どものイメージも変わるであろう。また、いい保育（いいところ）を真似（盗む）ことができる。さらには話し合いの際のコメントをしっかり残して、自分で省察することが必要である。記録の有効性を理解し、価値のある記録から「計画・案」につなげることが大切である。

## 保育の質を考える —環境と子がつながる保育者の役割—

○永田陽子（大和郷幼稚園）  
小林愛子（戸山幼稚園）

田苗孝子（宝仙学園幼稚園）  
町山太郎（まどか幼稚園）

### 昨年度の研究と今年度の研究テーマ

昨年は、東京都内の私立幼稚園が質の高い保育と遊びをどのように捉えているか自由記述の質問紙調査による意識調査を行い、キーワードを担当委員で整理した。その結果、質の高い保育は、環境、保育者の専門性の向上、人間関係、遊びの援助、子どもの育ちの力、保育方法、主体性に分類された。また質の高い遊びは環境との関わり、子どもの姿、意欲・充実、仲間関係、遊びの発展、解決力に分類された。この結果を受けて、保育の質を高めるためには、子どもが環境と出会い、その環境をいつの間にか自分のものとしていく過程に注目することが必要だと考えた。そこで、今年度は共同研究者として赤石元子先生（明治学院大学特命教授）にご助言いただきながら、環境に焦点をあて実践事例を考察し保育者の役割を探っていくことを研究目的とした。

### 事例発表1 運動能力の発達を促す環境と保育者の役割について～投運動に注目して～ （発表者 町山太郎）

幼児を対象とした全国規模の運動能力テストによると、運動能力は1980年後半から1990年代後半にかけて低下し現在もその傾向が続いている。本園（まどか幼稚園）の運動能力テストでもその傾向は見られており、特に投能力が低い傾向が見られた。昨年度園内の遊びを長期間観察したところ鬼遊びや大型遊具を使った遊びが多く、投運動を含む遊びが少ない傾向が見られた。そこで運動能力の向上のためには投げる遊びを促す環境設定が必要であると考えた。

まず、遊戯室に長さを変えた紐にフープを結

んで吊るし、フープめがけて玉入れの玉を投げる遊びの提案を年少児に行った。その後、特に「投げる」遊びは日常の環境との関わりが重要であるという赤石先生からのご助言や、子どもの発話や保育者の関わりを踏まえ環境の再構成を行った。場所を園庭中央の木に移し、フープには点数をつけた。すると、年少児は担任が関わっていることで興味を持ち、挑戦する姿が見られた。また輪に投げ入れる経験をするのをねらいとしていたが、台を設置して投げ入れやすくする工夫や、木に登って放ることによって得点するといった姿が見られた。全体的には、園庭のどこからでも見られる場所であったため参加人数が増え、異年齢の子どもが参加し、「登る」動きが見られるという特徴があった。保育者が意図的に環境を整えることで子どもの遊びや関係が変化し、保育者の限定的なねらいだけではなく幅広い経験に繋がることを見ることができた。ただし、今回は子どもが主体的に環境を自分のものにする過程という点では課題もあるので今後の工夫が必要である。

今回の発表によって、会場の方々との意見交換を通して各園の実践や新たなアイデアなどを示していただいた。

### 事例発表2 「アナと雪の女王ごっこ」遊びから劇場ごっこへ （発表者 小林愛子）

この事例は、本園（戸山幼稚園）の園生活の中で自然発生したことが遊びに繋がり、数人の子どもたちから園全体へと広がりさらに保護者を巻き込んでの取り組みとなったものである。

4月、新年度が始まって年長女兒が「ありのままの～」と歌いながら心弾ませて登園してき

たことが始まりである。皆、映画やテレビの影響からこの歌をよく知っており口々に歌っていた。気持ちよく歌っている子どもたちの姿を見て担任が「ピアノの伴奏をしたらもっと楽しくなる」と思い毎日ピアノの練習をし始めた。担任のピアノの上達に合わせてようにクラスで大合唱をしたり、歌の発表会をするなどして盛り上がっていった。それと並行して自由な時間帯の中で主人公エルサになりきって遊ぶごっこ遊びが盛んに行われ、ドレスを身にまといエルサへの憧れの気持ちを表現している子どもたちの姿があった。しかし、そのころの幼稚園ではこいのぼり制作に取り組んでおり、職員間でエルサになりきって表現している子どもたちの様子を話題にしていたもの子どもたちの展開しているごっこ遊びに向ける意識は低かった。日頃、子どもたちの遊びの様子や関わりをよく見て読み取り、子どもが遊びを広げていくための援助をしたいと話しているが、実践できていない状況からこいのぼりの制作が一段落した頃に教頭が職員に声をかけて話し合う場を設けた。赤石先生の「遊びの質を高める5つのステップ（①よく見る、②読み取る、③考える、④環境の提案と援助、⑤変化を見る）及び「子どもの遊びを支える保育者の役割（①メッセージを込めた環境をつくる、②子どもと環境を繋ぐ）」についてアドバイスいただいたことを基に、子どもが主体で遊びが展開できるための「アナと雪の女王ごっこ」に必要な環境と保育者の援助について何が必要かを話し合った。その後、子どもたちにわかりやすく共通理解でき、全体が見通せるようにホールに整えることから実践していった。そのことによって子どもたちの動きに大きな変化が見られた。遊びに必要な物作りを始め、友だち同士教え合う姿が見られたり、映画の一場面に見立てた大道具を協力し合って作ったりする姿が見られた。またそれに合わせて、会場作りを始

める子、演じる子、そして司会進行をする子等、必要に応じて役割分担をする姿が見られ「アナと雪の女王ごっこ」から劇場ごっこへと発展し、自分のやりたい役割を率先して取り組み、園全体を巻き込んで保護者を招くまでの取り組みに展開していった。

今回の事例を通して、子どもは環境と関わる中でどんどん遊びの目的が変化し遊びがより面白く楽しくなるための方法を考え出して遊びを展開していくことを学んだ。さらに保育者はその遊びの変化を見逃さず、保育者も共に遊びの楽しさやイメージを共有しながら環境を整え、子どもたち自身がより遊びを豊かに展開していけるよう環境設定を考えることが、環境と子どもが繋がるための援助となることを学んだ。そして遊びを見通す目を深め、保育者間の共通認識の下、育ちに必要な環境を用意し援助していく保育者の役割の重要性を再認識した。

事例発表後、会場において共感して下さる先生方のお声が多く嬉しく思うと同時に、皆さん保育現場で子どもたち自身が主体となって積極的に遊びを展開していった欲しいという願いをもって保育実践していることがよくわかった。今回事例発表したことで、保育を考えることの1つのきっかけになることができたならば幸いである。また保育の質を高めるという課題の難しさを感じる中、事例を発表するという機会を得たことで、目に見える成果を求める社会風潮、行事やイベントに分断される保育、子どもの自発性と保育の計画関係の難しさ、など様々な視点から保育を考える場となったが、今後も「保育の質」「遊びの質」を向上させるための研究に取り組み保育の在り方・保護者の役割について追及し、日々の保育の充実を目指していきたいと思った。

## 保育実践に生きる園内研修

### —よりよい園内研修のあり方を探る—

○村上 里絵 (光沢寺中井幼稚園)

日々の保育の営みの中で保育者は、子ども理解に努め、指導計画を立て、実践し、本日の保育を省察し、明日の保育を考える。このサイクルの積み重ねが保育実践の質を向上させる。しかし、保育の質の向上は、保育者一人で行えるものではなく、同僚との協働の中での学び、専門性に導く先輩保育者の存在、また、園内外の研修における主体的な学びが必須であり、特に専門職としての確かな成長へと繋がり、保育の質を向上させる「園内研修」は重要であると考え。保育実践に生きる、保育者が学び合い育て合う場、分かち合い導きあう場となる「園内研修」のあり方を考える。

#### 1. 「園内研修」の2つの柱

当園の「園内研修」は、「ケースカンファレンス」と教育(保育)課程が同じである姉妹園と共に行う「公開保育」を含む「四園合同園内研修」の2つの柱で成り立っている。

#### 2. 「ケースカンファレンス」

特別な支援が必要な子どもの「気になる行動」「生活面(身辺処理など)」「知的側面(言語・理解など)」「(母子関係も含む)人間関係」の側面からその子について考える「ケースカンファレンス」を学期末に行っている。そこでは、それまでに受けた研修などでの学びを参考に、気になる子の気持ちや行動理解、関わり方、配慮事項などについて全職員で考え合う場である。担任が気づかなかったその子の気持ちや関わり方に加え、保育の工夫、クラス運営、保護者との連携など様々な取り組みの具体案が生まれ、保育の見直しや園全体で共通認識を図る良い機会となっている。ケースカンファレンスは、“分かち合いと導き”の場にな

門田 理世 (西南学院大学)

っていると思われる。

#### 3. 四園合同園内研修

姉妹園と共に行う「公開保育」を含む「四園合同園内研修」を平成7年度から実施し、定例化している。年度当初には、研修テーマや内容を決め、さらに公開保育をする3歳以上児クラスの保育者を選び、年間計画を立てている。

研修講師は、過去には消防署員や小学校教諭・大学教授などのように外部から招聘することもあったが、近年は園長や主任、中堅保育者が行っている。

以下は、平成25年度研修計画の一覧である。

○指導計画研修

○教材研究研修

○保健・救急研修

○リーダーとしての役割を学ぶ主任研修

また、経験年数に応じた

○子どもの発達理解と遊びを学ぶ初任研修

○中堅保育者の役割を学ぶ中級研修

○幅広い知識と技術を学ぶ上級研修。

○代替・パート職員研修 など

このように様々な視点と経験年数に合わせた内容を工夫した研修を年間5～7回計画、実施している。

#### 4. 四園合同「公開保育」

保育の主体である子どもの気持ちに寄り添う関わりをしているか、教育(保育)課程に沿った保育をしているか、保育計画が実践に活かされているか等について、保育を参観し同じ年齢を担当する保育者が学び合うことのできる

園内研修が「公開保育」である。



《公開保育の様子》

「公開保育」では、保育計画と実践がつながっていることを示す資料として「一コマ案」を作成している。一コマ案には、その月及び週の保育のねらいと活動展開の流れからその日の“保育のねらい” “予想される活動の展開” それに伴う“援助”、子どもを主体的にさせる“環境構成”、そして、“気になる子どもの行動”や“家庭的背景”などを記載している。事前に参観する保育者が一コマ案に目を通し公開保育に参加できるようにしている。

### 5. 公開保育後の“学び合い育て合う場”

「公開保育」は、保育を公開することで、保育を公開した保育者及び参観した保育者両者の「保育の質が向上する」ことが大きな目標である。



《公開保育後の学び合う会》

「公開保育」後の“反省会”と称する会では、質疑応答をしたり、感想を述べ合ったりし、自身の

保育とは違う点や気づきなど様々な意見を出し、それぞれの思いや意見を分かち合い、導き合えるようにしている。また、その時間と場において、子どもの発達の手続き性を改めて確認したり、発達に合った関わりや保育の在り方を探ったり、深く学び合える大変貴重な時間になっており、保育を真摯に考え合う場になっていると思われる。同時に、様々な視点からの意見が、各自の保育実践に生かそうとする大きな動機づけとなり、同時に、クラスの子どもたちの育ちや自身の保育技術を改めて省察する機会になり、より専門性を高めようとする気持ちが高まっていることが伺える。

### 6. 終わりに

「園内研修」は、「実施している」という安心感だけに終わらず、保育技術を向上させ、専門性を高めるべきものであることは周知なことである。

特に、乳幼児期の子どもたちの発達理解と発達を支える専門職として、保育者個人の資質レベルに留まらず、経験年数を越えた同僚が、互いに支え合い、分かち合い、導き合い、共に成長しながら、専門性を高め合うことが必須である。そして、それは、日常の保育臨床をふまえた「園内研修」の場で行うことが必要であると考えられる。

今後も、保育者一人一人が主体的に、同僚保育者の保育実践を見て学び、語って考え、子どもの姿に学びながら、更に保育実践に生かそうとする意欲が高められる「園内研修」の実施を継続したい。更に、保育の専門職としての誇りや学ぶ姿勢に揺さぶりをかけ、子どものためによりよい保育実践を創りだし、生かしていける保育者チームを目指す「園内研修」の在り方を探求していきたいと思う。

## ◆教育再生実行会議～第8次提言～

「教育立国実現のための教育投資・教育財源の在り方について」（第8次提言）

**これからの時代に必要な教育投資の最優先事項として  
「幼児教育の段階的無償化及び質の向上」が盛り込まれる****試算額 約『1兆円』**

“今後10%を超えて消費税が増税された場合、使途を教育に拡大”  
“幼児教育の段階的無償化及び質の向上を最優先に取り組む”

教育再生実行会議は、7月8日、「教育立国実現のための教育投資・教育財源の在り方について（第8次提言）」を安倍晋三首相に提出しました。内容は、次のとおりです。

## 2. これからの時代に必要な教育投資

1. で述べた教育投資の意義や効果を踏まえ、これまでの7次にわたる提言の内容を実現し、実際の教育活動をより良いものとするとともに、我が国の持続的な成長・発展につなげるためには、次に掲げる方向性で教育投資を充実することが不可欠です。

特に、我が国にとっての喫緊の課題である少子化の克服や世代を超えた貧困の連鎖の解消に大きく貢献する、「幼児教育の質の向上及び段階的無償化」、「高等教育段階における教育費負担軽減」については、優先して取り組む必要があります。

## (1) 全ての子供に挑戦の機会が与えられる社会を実現する

&lt;具体的な施策と試算の例&gt;

○ 幼児教育の段階的無償化及び子ども・子育て支援新制度に基づき幼児教育等の質の向上約1兆円

- ・ 3～5歳児の幼児教育を無償化
- ・ 子ども・子育て支援新制度に基づく、幼児教育・保育・子育て支援の更なる「質の向上」（職員の配置や処遇の改善等）

首相官邸ホームページ 教育立国実現のための教育投資・教育財源の在り方について（第8次提言）

[http://www.kantei.go.jp/jp/singi/kyouikusaisei/pdf/dai8\\_1.pdf](http://www.kantei.go.jp/jp/singi/kyouikusaisei/pdf/dai8_1.pdf)

〔今号は1枚〕

◆幼児教育無償化に関する関係閣僚・与党実務者連絡会議が開かれる

## 幼児教育の無償化、さらに推進へ 「環境整備」と「財源確保」を図りつつ、段階的に推進する

平成27年7月22日（水）、『幼児教育無償化に関する関係閣僚・与党実務者連絡会議』が開催され、幼児教育の無償化の実現に向けて、「環境整備」と「財源確保」を図りつつ、段階的に推進するとの方針を取りまとめました。

このため、平成28年度においては、別紙のとおり、下村・文部科学大臣、塩崎・厚生労働大臣、有村・少子化対策担当大臣が取りまとめた基本的な考え方（別紙：平成27年5月21日）を踏まえ、「環境整備」と「財源確保」を図りつつ、段階的に無償化に向けた取り組みを進め、その対象範囲や内容等については予算編成過程において検討することとなりました。

全日私幼連では、引き続き香川敬会長を先頭に、幼児教育の質の向上、幼児教育の無償化の実現、子ども・子育て支援新制度の充実に向けて、組織の総力を結集し、関係方面に対する要望活動を強力に行ってまいります。

[今号は3枚]

## 幼児教育無償化について

平成 27 年 7 月 22 日  
幼児教育無償化に関する  
関係閣僚・与党実務者連絡会議

- 幼児教育無償化は、幼児教育の重要性に鑑み、低所得世帯を含むすべての子供に質の高い幼児教育を保障することを目指すものであり、本連絡会議において基本方向を定め（『「幼児教育の無償化」について』（平成 25 年 6 月 6 日 幼児教育無償化に関する関係閣僚・与党実務者連絡会議）、平成 26 年度及び平成 27 年度予算編成において、無償化に向けた段階的取組を進めてきたところである。

また、「経済財政運営と改革の基本方針 2015 について」（平成 27 年 6 月 30 日閣議決定）においても「幼児教育は人格形成の基礎を培うものであり、重要な政策課題として総合的にその振興に取り組む。家庭の教育費負担軽減の観点から、少子化社会対策大綱等も踏まえ、幼児教育の無償化に向けた取組を財源を確保しながら段階的に進める」とされている重要課題である。

- このため、平成 28 年度においては、別紙のとおり関係閣僚が取りまとめた基本的な考え方を踏まえ、「環境整備」と「財源確保」を図りつつ、段階的に無償化に向けた取組を進めることとし、その対象範囲や内容等については予算編成過程において検討することとする。

(別紙)

平成27年5月21日

子ども・子育て支援新制度及び幼児教育無償化に係る  
平成28年度予算編成に向けた基本的な考え方について

文部科学大臣	下村博文
厚生労働大臣	塩崎恭久
内閣府特命担当大臣(少子化対策)	有村治子

子ども・子育て支援新制度及び幼児教育無償化について、平成28年度予算編成においては、以下の方針に基づき、取り組むこととする。

記

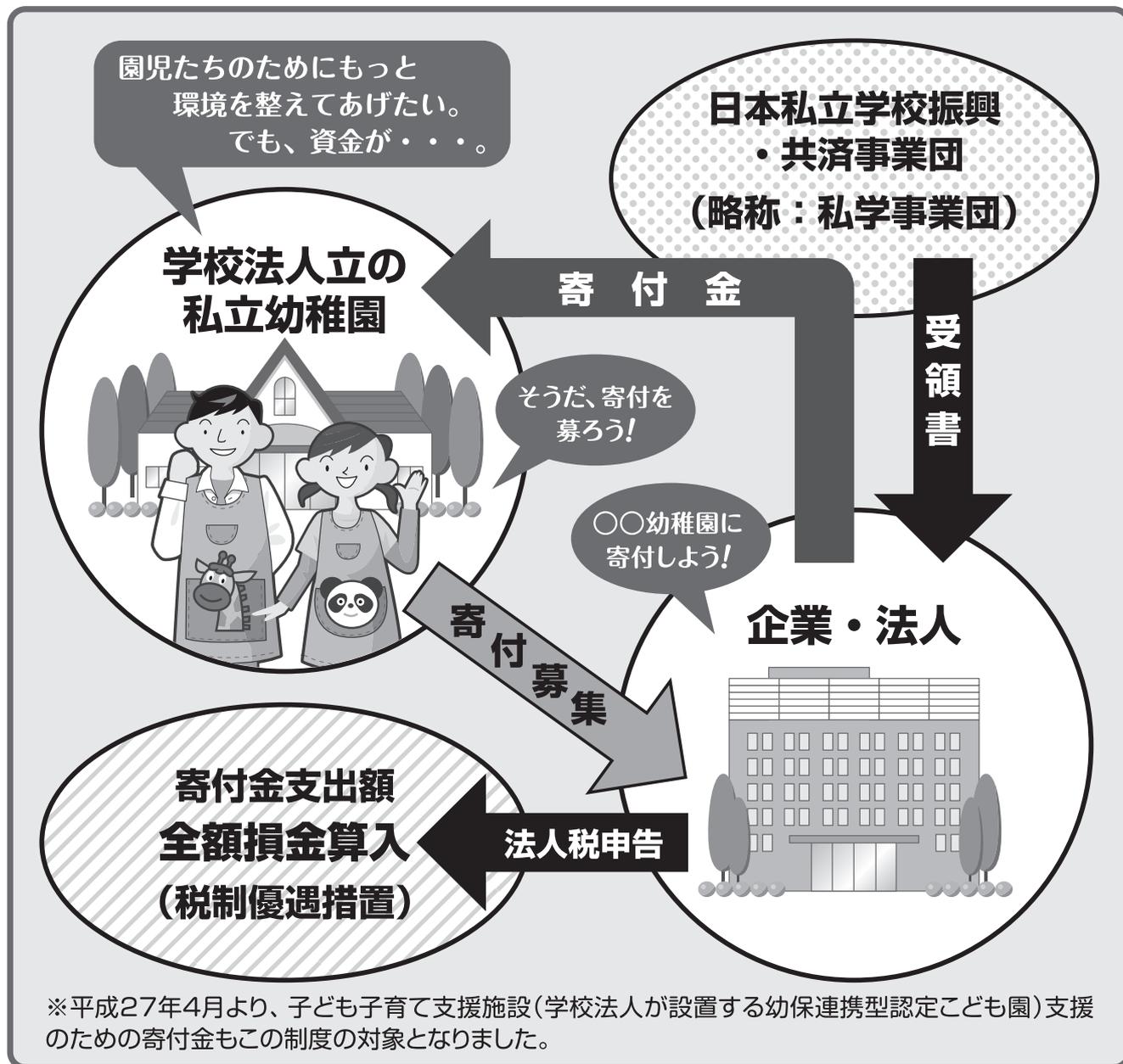
1. 子ども・子育て支援新制度については、0.7兆円ベースの「量の拡充」及び「質の向上」の維持を最優先しつつ、「1兆円超」の財源確保に引き続き最大限努力する。
2. 幼児教育の無償化については、「環境整備」と「財源確保」を図りつつ、段階的に推進する。
3. 子ども・子育て支援新制度に係る「1兆円超」及び幼児教育無償化については、平成28年度概算要求では事項要求とする。
4. 幼児教育無償化は、平成28年度予算編成においては、少子化対策を主軸としつつ、貧困対策の要素も加味して検討する。  
具体的には、少子化社会対策大綱(平成27年3月20日閣議決定)において、多子世帯への一層の配慮が重点課題として盛り込まれたこと等を踏まえ、多子世帯・低所得世帯を優先課題との認識に立って、以下の点に留意しながら検討する。

- (1) 少子化対策の観点からは保育所(0~2才児)も含めた複数案の試算・検討を行う。
- (2) 自治体実務(電算システム)への影響も考慮する。

以上

多くの幼稚園のご利用をお待ちしています。

# 私学事業団の 受配者指定寄付金制度



受配者指定寄付金制度を利用して、学校法人立の私立幼稚園へ寄付を行うと、寄付者(企業・法人)は法人税法上の優遇措置として全額を損金算入することができます。企業・法人への募金活動の際は、この制度をお役立てください。

詳しくは、冊子「受配者指定寄付金 寄付金事務の手引」(無料)又は日本私立学校振興・共済事業団ホームページ(URL：<http://www.shigaku.go.jp/>)をご覧ください。

幼稚園にかかわる皆様のご利用をお待ちしています。

日本私立学校振興・共済事業団  
助成部 寄付金課

〒102-8145 東京都千代田区富士見1-10-12  
☎ 03 (3230) 7317・7318  
✉ kifukin@shigaku.go.jp

## 真の子育て新制度の終着点とは

子ども・子育て支援新制度（以下、新制度）がスタートして数カ月が経過しました。新潟県内は私学助成園54園、施設型給付園15園、幼稚園型認定こども園8園、幼保連携型認定こども園33園となっています。

新潟県は私学助成振興補助金の他に、県単独上乗せ補助17,600円／人が従来から助成されており、県私幼協会としては新制度施行後も認定こども園1号児には同様の助成をしてもらう要望活動をしてきました。結果、新制度後も認定こども園1号児には県単上乗せ補助を継続してもらえることになりました。一方、県内の各自治体間において1号児利用者負担額の格差問題や行政処理の二元化問題、膨大な事務処理問題など、当初は想定していなかった問題が噴出しているのも事実です。こういった課題の共有化・県内の情報交換を目的として、県私幼協会内に「認定こども園委員会」を立ち上げ、問題の解決や新制度の動向を注視し精力的に活動を展開しています。

やはり新制度は質的向上よりも量的拡充に重きを置いていることが否めませんが、私たちは平成17年中教審答申の意義も踏まえつつ、子どもがまんなかの質の高い保育教育を担保する無二の施設である自負を忘れてはなりません。

OECDが提唱するPISAの問題解決型学力重視の重要性も理解できますが、日本の郷土に根ざしたパトリオティズム（郷土愛）を育んだうえで、コスモポリタニズム（世界市民）へ昇華してこそ真のグローバル教育の終着点になるのではないのでしょうか。今後、幼児教育振興法（仮称）や新制度がその礎になることを希求します。

（（一社）新潟県私立幼稚園協会副理事長、上越市・認定こども園マハヤナ幼稚園／石田明義）

## 教育の質の向上を目指して

島根県は少子化の影響をまさに受け、平成11年に18園だった私立幼稚園が、現在は実質10園にまで減少し、5月1日現在で489名の県内園児数という実態です。

園児数の激減により決して楽ではない当連合会事業費の中で、私たちは保育を公開し合う研修を前年度から始め、費用（交通、宿泊、代替教員費用）の一部を連合会で負担する決定をしました。少ない園数の中で、教育の質を高め合う学びになるように、との思いでいます。

少子化が厳しい現状となっている今、これまで以上に教育の質が問われています。少なくなった子どもたちに、丁寧で良質な教育を。将来を担っていく子どもたちのために、今、私たちができる最高の教育に取り組むことが重要な責務、と考えているからこそその取り組みです。

子どもを取り巻く社会状況が変化し、共働き家庭が増加傾向にあり、地域のコミュニケーション力も弱まってきている中、保護者の方が園に求められることも、変わりつつあるのかもしれない。

新制度の中では、国が職員配置の改善や子育て支援のための専任化、研修代替、処遇改善等を進め、運営面における質の向上を図るための加算があります。

さらに、私たちがプロとして向上させなければならないのが、教育の質です。環境構成に配慮し、子どもたちの育ちにも十分に目を向けながら、子どもたちが成長していく中で必要とされる様々な力の芽を育むためにも、しっかりと取り組む必要があると考えています。

（（一社）島根県私立幼稚園連合会副理事長、松江市・育英幼稚園／坪内朋子）

## フードシステム ソリューション2015 開催のお知らせ

学校給食・病院食などの厨房機器、食品やサービスが集う『フードシステムソリューション2015』が本年9月に東京ビッグサイトで開催されます。現場で働く栄養教諭、栄養士等に対する最新情報の提供・人的交流が行われる国内唯一の展示会です。給食の提供、導入を検討している全国の幼稚園関係者は必見です。

詳しくはホームページをご覧ください。

<http://www.f-sys.info/f-sys/>

- 開催日時：平成27年9月30日～10月2日
- 開催場所：東京ビッグサイト 西ホール

## 編集後記

アブラゼミの抜け殻がひとつ、わが家のブロック塀にしがみ付いています。ノラ猫が隣家と行ったり来たりするにも蹴落とされることなく、この一年間風雪にも耐えてきました。「虎は死して皮を留め、人は死して名を残す」という諺がありますが、セミも死して殻を残したということでしょうか。ただし、虎の皮のように珍重されることも、名を語り継がれることもありませんが…。

この号が出る頃には決着していると思いますが、新国立競技場の問題が世間を賑わせています。日本の国威を内外に示すために負の遺産になりうることを承知の上で莫大な費用をかけるのか、計画を見直しするのか。いずれになるにせよ、幼児教育にももっと予算をつけて欲しいものです。何かにつけて引き合いに出される「…生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なもの…」という文句が抜け殻にならないようにと願います。

(調査広報委員長・四ツ釜雅彦)

## 平成27年度(第7回) 免許状更新講習の認定一覧

●必修領域「教職についての省察並びに子どもの変化、教育政策の動向及び学校の内外における連携協力についての理解に関する事項」に関する免許状更新講習

講習の開催地	講習の概要	担当講師	時間数	講習の期間	受講数	認定番号
山形県 山形市	本講習では「教職についての考察」「子どもの変化についての理解」「教育政策の動向についての理解」「学校の内外における連携協力についての理解」の4つの事項について、幼児教育に携わる者に対して求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。	山王堂 恵偉子(東北文教大学人間科学部子ども教育学科 准教授)、村上 智子(東北文教大学人間科学部子ども教育学科 准教授)、永盛 善博(東北文教大学短期大学部子ども学科 講師)、下村 一彦(東北文教大学人間科学部子ども教育学科 准教授)	12時間	平成27年10月31日～平成27年11月1日	50人	平27-81340-00804号

●選択領域「教科指導、生徒指導その他教育の充実に係る事項」に関する免許状更新講習

講習の開催地	講習の概要	担当講師	時間数	講習の期間	受講数	認定番号
山形県 山形市	本講習は保育の振り返りと保育の公開を学ぶことを目的とし、園としての保育の自己点検・自己評価の具体的な方法、園内研修での自己点検・自己評価の具体的な取り組みについて理解を深め、より望ましい園内研修のあり方を知る。	賀門 康博(郡山女子大学附属幼稚園園長、郡山女子大学短期大学部非常勤講師)	6時間	平成27年11月21日	50人	平27-81340-57742号
山形県 山形市	本講習は、幼稚園教育内容を深めることを目的とし、幼稚園教育要領の理解(ねらい、内容の理解、計画作成)を深めた上で、環境の領域から自然への興味関心を深める手立てとしての自然教材の活用について、演習を交え学ぶものである。	武田 剛(東北文教大学 非常勤講師)	6時間	平成27年11月22日	50人	平27-81340-57743号
茨城県 水戸市	はっきりと障害があるとは言えないが教員が保育をしている気になる子どもが各園に在園していると思われる。個性として認めながらも援助や支援に工夫が必要な子どもを本講習で取り上げ、具体的にどう保育をしていくことが大切か考えていく。また保護者に対する支援等についても考えていきたい。	飛田 隆(茨城キリスト教大学文学部児童教育学科准教授)	6時間	平成27年11月21日	80人	平27-81340-57744号
香川県 善通寺市	幼児教育において、「遊び」が重要であることは周知のことである。子どもが「遊び」を通して様々なことを学んでいることは疑う余地もない。しかし、ただ遊んでいれば子どもは育つのか。本講習では、ビデオ記録をもとにした園内研修やビデオカンファレンスを通して、「子どもを理解すること」について考察することとする。	岸井 慶子(青山学院短期大学子ども学科教授)、森内 智子(四国学院大学社会福祉学部准教授)	6時間	平成27年10月23日	35人	平27-81340-57745号